平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070501947		
法人名	社会福祉法人　敬寿会		
事業所名	グループホーム美咲ヶ丘		
所在地	北九州市小倉南区大字新道寺1085－1		
自己評価作成日	平成25年8月21日	評価結果確定日	平成25年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4070501947-00&PrefCd=40&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町１－６－１６　TEL:092-589-5680　HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成25年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】(Altキー+enterで改行出来ます)

年間の季節に応じて行事を取り入れ御家族、地域の方々との交流を深めゆとりある暮らしに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

九州道小倉南インターから田川方面に下り、国道を一本入った東大野八幡神社の近くに「グループホーム美咲ヶ丘」がある。社会福祉法人を母体とし、敷地内では特養やデイサービスも営まれ、その中で当事業所は開設からまもなく10年を迎える所である。周囲を森林や緑に囲まれた閑静な立地で、すぐ裏にある林で栗拾いや、つくしの芽吹きを楽しめ、季節の移ろいを身近に感じる事が出来る。入居者が笑い、楽しんでくれるサービスを心がけており、対話を大事にし、調査時もそれぞれが柔らかい表情で一日を過ごしていた。家族も協力的で、行事を一緒に楽しんだり、合同で運動会なども企画しており、入居者の楽しそうな様子を見て非常に喜ばれている。地域の文化祭のフリーマーケットには作品も出展することで刺激にもなり、意欲を引き出すこともできた。納涼際はグループの特養やデイサービスとも協力して大々的に行い例年好評である。今後も地域密着型施設として、情報発信や相談所として、地域発展へのますますの貢献が期待される事業所である。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目:25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目:20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目:40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目:38,39）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目:51）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目:32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目:30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目:9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目:2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目:4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目:11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念として玄関の目のつきやすい場所や職員控え室に掲示している。職員は目にする機会が多い。	開設時に作られた法人の理念が3つあり、更衣室や玄関先に掲示して、身につくようにしている。年に数回、新人が入った時にもオリエンテーションで理念のおさらいをして、言葉遣いなども振り返っている。事業計画に定める研修予定で理念に関するものも入れ込まれている。	地域密着型施設としての、グループホーム独自の理念を定める事で、今後の地域との関わりに方針がもたれる事が望まれる。また、年に1回程度は職員全体で理念に関しての実践や内容に関しての話し合いがされることにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域的に住宅が離れている為交流は困難、近くの福祉施設の利用者との交流はできている。	事業所の文化祭には地域の方も招いて開放し、盛況であった。日常的には近くの障害者更生施設との相互交流もされており、地域の保育園との交流もある。前は地域公民館の文化祭にも参加していた。地元の職員も多く、地域の情報を取り入れ、併設のデイサービスと合わせて、地域ボランティアや老人会との交流も持たれている。	近隣に住宅が少ないため、日常的な交流は難しいが、自治会や町内会の情報を得ることで、外部との相互交流がさらに進められることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会、保育園などの行事を通じて、家族の参加や協力を得て地元の方々と交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催している。地域包括の職員や家族、民生委員の参加で報告に対して意見を活かしている。	年に何回かは行事と一緒に運営推進会議を開催することで、実際のサービスも見てもらっている。家族はユニット毎に代表者が参加し、現状報告、行事案内をするほか、地域情報をもらったりもする、毎回活発な意見が出され、新しい行事の取り組みにも提案を頂いたりしている。	行事とあわせて開催することで、取組を公開し、活発な意見交換がなされている。今後は行政へも参加の案内をして幅広い参加を求めたり、議事録の閲覧・公開をすることで、欠席者や利用者家族とも情報が共有されていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を利用し地域包括センターの職員の参加もあり運営状況や取り組みなど報告し意見を頂くことで協力関係できている。	更新手続きなどで窓口へ訪問するほか、質問や相談などがあった際にも電話や訪問でやりとりをしている。主に管理者が担当するが、法人本部の管理者がコミュニケーションをとることも多い。事業所が発行する「美咲ヶ丘だより」を使って定期的に挨拶にも伺っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。職員研修や在宅事業部での講師による研修あり。年間の研修企画の中に組み込まれている。	以前は玄関も開放していたが、今は防犯上の理由もあり、家族にも説明同意の上でオートロックで管理し、施錠している。外出の要望には付き添って本人の気の済むように支援している。全体研修と事業所の研修などで年に2, 3回勉強会を行い、言葉かけや投薬に関しても拘束に当たる行為の理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員研修や在宅事業部での講師による研修があり。又グループホーム内でのミーティング時等を利用し注意し合う場を設けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが、パンフレット等目のつくところに置いている。	今までに対象となるような入居者はいなかったが、説明用のパンフレットが用意され、自由に持ち出せるように玄関先に設置されている。必要な際は管理者が主に担当し、現入居者の家族とは協力的な関係を築いている。	現在は対象ケースがないが、今後の対応に備えて、法人グループ間での情報の共有や、内外の研修の機会によって、制度理解を進めていくことが望まれる。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。契約更新時に説明を行い了解を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。	面会時などに意見を直接聞く事が多く、内容は申し送りで共有している。以前、家族会の要望があり、対応に関して計画中である。家族の意識も高く、協力の申し出などもあり、行事の参加率も高い。外部評価結果も毎回開示し積極的に伝えており、玄関に設置される意見箱もよく活用されていた。	要望にもあった家族会は行事などと同日開催することで過度に負担をかけずに取り組んではどうだろうか。また、遠方で訪問しづらい家族の意見も取り入れる為に、家族アンケートなどの取組が検討されることにも期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	玄関の目につく所に意見箱を設置し家族の意見や要望を聴くようにしており、ホームの運営に役立てるようにしている。	年に2回、管理者、部長と定期的に面談を行い、疑問点や意見などを伝える事が出来る。毎月のミーティングでも外出や行事に関しての意見が出せ、敬老の日の温泉レクへの取組がなされた。ユニット単位や事業所全体でも個別や全体での相談がなされ、シフトや備品に関しても改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い意見、要望を聞いている。又OJTを取り入れ各自が向上心が持てるように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、就業規則にのっとって性別、年齢等に関係なく、適正及びやる気を判断して採用している。又、職員育成の為研修会を行い、スキルアップを図っている。	外部講師を招いて、職員のストレスマネジメントに取り組んでおり、メンタルヘルスケアを行っている。個別面談でも目標設定やOJTを行い、人事考課と連動させて評価し、モチベーションを高めている。外部研修の機会もあり、レベルを向上させ、育児休暇などでもシフト調整を柔軟に行う。職員同士のコミュニケーションもよくとられており、働きやすい職場環境を作っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者１人ひとりに合わせた権利擁護に配慮したサービスについては、職員研修を通じ実践している。日常的にミーティングや口頭、申し送り簿などで徹底を図っている。	プライバシー保護や虐待に関しての勉強会を行って、呼びかけ方や、言葉遣いに関しての注意をしている。職員同士でも気をつけて、個々の人権に配慮したケアを日頃から心がけている。	人権教育や啓発のために、外部研修の参加や、研修資料の回覧、伝達講習などによって、全体の理解が深められることに期待したい。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTを用いて職員各自の目標を設定し意識の向上を図っている。又、面接の機会を年2回設け、状況に応じて随時相談がうけられるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力病院の地域連携室主催の研修に管理者と代表者が参加し伝達研修している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学の申し込み時より細かく説明をし、面接や体験など導入しながら情報収集し、対応工夫し関係作りに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、面接時に時間を確保してもらいグループホームの役割、理解を深めてもらい不安や要望を引き出している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時にできるだけ多くの情報を提供してもらいアセスメントにつなげている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向を確認する事を大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の意向を大切にしている。家族との関係を継続していく為にも行事の参加を呼びかけている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時に管理者、家族と相談しながら、日常生活に慣れしたしんだ物を持ち込める様に検討している。	入居時に面談し、これまでの生活歴などを聞き取り、友人や交流関係を把握している。家族からも連絡してもらって自宅に帰ったり、行きつけの美容室に行ったり、趣味活動を楽しんでもらったりもしている。家族にも支援をしてもらい、誕生日には個別ケアによって、個人の希望に出来る限り応えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールで過ごされる利用者が多いので利用者の性格や状況でテーブル席を工夫している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後家族から訪問して来るケースが多く、他の介護施設に入所しても相談等あれば対応している。(今後の不安の相談等)		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の生活歴や趣味、嗜好など参考に意見、希望に添った支援を行っている。	入居時に本人、家族とアセスメントを行い、入居後も現場の様子から表情や仕草などを読み取って、好きな事などを把握している。ケア中の何気ない話を記録にも活かし、今では家族よりも本人の状況に詳しい程である。日々の意見や情報は管理者にもあげて、ｶﾝﾌｧﾚﾝｽなどでも共有し、個々の要望にそったプランの作成につなげている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートに把握した情報をあげている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の個別記録を記入して現状の把握をして、職員間で共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングや家族の面会時に現状の報告を行いケアのあり方や希望を聞き出している。	ケアプランの見直しは変化があった時に随時と、半年ごとに行う。現場の職員がアセスメントに関わることもあり、ユニットごとに個別の問題を話し合うことで、現場からも多面的に捉え、ケアプランの見直しに反映させることが出来る。よりいっそう日々の実施とケアプランが連動してくるように、記録の様式などを試行中である。	現在でも現場の意見をとりいれながら、ケアプランの見直しや、モニタリングに活かしているところであるが、見直しやモニタリングを年間計画に取り込むことで、さらに頻度を細かく、短期間で確実に行われるようになる事が期待される。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録を記入し気付きや実践、結果など職員間で引き引き告ぎ共有している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者等からの訴えや変化については早急に対応できる様なシステムがある。管理者に連絡し指示を受けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源との協働は困難さあり。地域的に住宅が少なく施設が孤立している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診で主治医の診察で健康管理や体調管理をしている。急患時の対応も可能で安心感がある。	事業所の提携医によって2週に1回往診が行われるが、提携以外のかかりつけ医でも希望があれば受診出来る。専門医などの通院は原則家族によって介助するが、必要があれば事業所からも同行し、主治医への情報提供も行っている。家族とも受診の都度、情報をやりとりすることで、情報を共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護婦資格を持った職員がいるのですぐに相談ができている。法人内の施設にも看護師がいるので伝達や相談ができる。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が医療連携室のソーシャルワーカーと連携を取り合って相談や退院に向けての協働をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所者には入所時に家族に支援の説明をしている。実際に利用者にとって最適な方法を話し合いながら取り組んでいる。利用者が重度化してきている現状がある。	事業所の方針を説明し、納得した上で看取り介護を行う。最期までという希望があればサポートしていく方向で、今後も望まれれば対応をしていく。以前に他施設での事例を話し合って事例検討を行った。提携医との緊急時の連絡体制や訪問看護とも連携をとっており、対応に備えている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回救急隊の実践研修を受けている。すぐ手に取れる所にマニュアル整備している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回防災訓練を行っている。日中想定火災、地震想定など行う。	年4回の訓練の内、2回は夜間想定で行い、2回は消防署の立会いの下、総合訓練を行っている。救命訓練も別の日に行っており、併設の特養にはAEDも備え付けられ、事業所にはスプリンクラーや備蓄物なども完備されている。マニュアルを元に、全職員が訓練で担当を受け持ち避難行動を学習する。近隣の障害施設とは相互に防災協定を取り交わしている。	住宅の少ない場所柄、地域の協力が求めにくい地域であるが、運営推進会議を同日開催することで、地域の参加を依頼するのはどうだろうか。また、防災協定を交わしている協力施設とも、相互に訓練の参加を協力しあうことなどに期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	時折できていない時がある。ミーティングや申し送りで検討や注意をしている。	毎月のミーティングや、連絡ノートを使う事で、声かけやケア時の注意・指導を行うほか、上長との個別面談でも聞き取り、教育している。全体では毎年1回、外部講師を招いて接遇研修も行う。個人情報の取扱も入社時に説明して機密保持の同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の重度化が進み、自己決定ができない利用者が増えてきて聞き取れない時がある。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールで1日を過ごしてもらっている。自分のペースで過ごされている利用者もいる。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時利用者bの意向を聞いて日常着を着用してもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の好む物を出来るだけ提供している。一緒に準備の1部、片付けをしてもらっている。	品数も多く、バランスのとれた食事で、栄養改善した方もおり医師からも高く評価されている。メニューは職員が入居者とも相談して、その時々の旬の食材や希望によって柔軟に作成している。職員が調理し、買物や下ごしらえなど手伝えることは手伝ってもらう。同じ食卓で一緒に食事を楽しみ、家族からも喜ばれていた。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配膳方法は個別で対応している、夏場は熱中症予防に努めスポーツ飲料、牛乳など多く使用している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。義歯の洗浄、消毒をする。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレチェック表を記入しながら観察や誘導を行っている。	毎日、1枚のチェック表によって、全員分の管理を行っており、こまめに確認することで全体で共有している。それぞれの状況とタイミングを把握することで、適切なトイレ誘導を積極的に促し、オムツ利用やパットの利用に関しても改善してきた。失敗があった時も羞恥心に配慮して声かけをし、拒否がある方にも、本人の気持ちを尊重しながら工夫した働きかけを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレチェック表で排便の回数をチェックし、腹部マッサージやホットパック、繊維の多い食物を摂る様に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に沿った支援はできていない。利用者の重度化を考えると今の体制では困難さあり。	基本的に週3回、午後から夕方にかけての入浴だが、希望があれば毎日入る事も出来る。普段は個浴だがなかには仲の良い入居者同士で一緒に入ることもある。拒否の際には無理強いはしないが、清潔を保つために週に1回は入るように働きかけている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週に1回のシーツ交換や汚染時にすぐ交換し清潔を保っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳や処方箋がすぐ見れる様にしている。各自薬箱に整理してすぐ取り出せる様にしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動や余暇活動の中で役割や楽しみごとを見つけられる様に支援していく。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に希望にそった外出はできていないが、できる限り行事等に組み込んで行っている。又、家族との関係を密にとり情報提供できるような関係作りに努めている。	気候に応じた外出レクを行い、毎月1回は全体で外出している。日常的には、広い敷地内を気軽に散歩する事ができ、外にイスを置いて日光浴したり休憩する事も出来る。今度の敬老会では日帰りの温泉旅行が計画されている。家族も協力的であり、本人が楽しんで外出する様子を非常に喜んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には持たず立替金で処理している。1部の利用者は少ないお金を持っているがほとんど電話代として使っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日共有部分、居室の換気、掃除は行っている。利用者が季節感をかんじられる様な花や物を飾っている。	リビング天井は吹き抜けで開放的な造りをしており、各所にある天窓によって、暖かな陽光が各所に差し込んでいる。過度に掲示物を貼らないことで、シンプルな飾り付けをしており、入居者が安らいで過ごせるような環境にしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いたり和室の使用を促している。時々仲の良い方の居室を訪問されている利用者もいる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や利用者の意向で相談にのっている。	木製ベッドとタンスが事業所によって備え付けられ、ベッド柵の希望がある際は個別で用意している。各部屋から緑が望め、季節の移ろいを感じ取ることが出来る。テレビや写真など、使い慣れた物を持ち込み、思い思いの部屋づくりがされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	小さな段差を無くし安全に掃除が行えるようにし、食事作りなど座ったまま包丁が使用できるようにしている。居室は、御家族と話し合い興味のある物をドア横に飾るなどし、御自分の部屋がわかるように工夫している		